



第169号
令和5年6月26日
能代市教育委員会
学校教育課
創刊
昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

巻頭言



足が速い光り物を どう捌く

浅内小学校
校長 佐藤 達治

昭和の時代に活躍した教育機器といえは、OHPを思い出す人が多いのではないだろうか。自分も小学生の時、発表で使用したし、教師になってからもOHPシート教材を作る研修会に参加した。教科ごとにカラー印刷のOHPシート教材もあった。また、児童生徒のノートなどを瞬時にOHPシートにする「トップペンアップ」もあった。その専用シートは、高額だったが、授業中に児童生徒のノートやプリントをすぐに共有ができて便利だった。しかし、平成10年代には、プロジェクターなどに取って代わられ、使われなくなった。さて、OHPシートを活用して授業をしていた初任のころ、当時の研究主任に「あれは光り物だから、板書と違って消えたら残らな

い。注意さねばだめだ。」と釘を刺されたことがある。「光り物」うまいことをいうなと思つたものだ。寿司ネタでは「こはだ・あじ・いわし・さば」など。光り物の魚は足が速いうえに、身も小ぶりで小骨も多い。職人の腕がものをいうネタでもある。タブレットと電子黒板が導入されてから、児童生徒は自分の考えを次から次へと簡単に大きく投影して発表できるようになった。しかし、一見、児童生徒が活躍している授業でも、それが深い学びにつながっているかどうかは別である。当たり前だが、ねらいを達成するために、教育機器をどの場面ですべてのように活用するかといった根本的なところは何十年たっても変わらない。だからこそ、教師の腕がものをいう。

能代市の授業づくり 〜本年度の重点〜

能代第一中学校
教頭 石川 雅道

自立した学びの創造



本校は、ICTを活用した授業改善支援事業のモデル校として、秋田の探究型授業の基本プロセスに沿ったICT活用の深化・充実に図り研究を進めています。

6月6日、義務教育課員等によるモデル校訪問がありました。榎森康毅教諭の音楽の授業では、歌詞から読み取った思いやイメージ

を表現するため、どんな歌い方をしたらよいかパートごとに話し合い、楽譜に書き込んだメモをタブレットで共有しながら合唱しました。また、録音機能を使って自分たちの歌声を客観的に吟味することで成果を実感し、次の活動へとつなげていきました。今年度は、生徒の多様な思考を想定した授業構想によって教師の導きを少なくし、生徒自身がデザインする授業を目指しています。

輝きの場面



『キラめく南っ子』

運動会の開幕を飾る熱いダンス
淳城南小学校



能代東中学校
教諭
吉田 祥子

これが私の 指導法

中学校で担任した生徒が、高校で活躍したり、一人前の社会人として、また、親として頑張ったりしている様子を見ると、「あのとき粘り強く関わってよかったな。」と、うれしい気持ちになる。



我が校の実践

ニッ井小学校

教諭 小河 和道

「地域を元気に」 元気の素は子どもたち

本校では、小中合同で地域創生プロジェクト「きみまちカンパニー」という活動に取り組んでいる。児童生徒が一持続可能な地域社会を創るために自分たちにできることは何かを考え、地域に貢献する活動である。ニッ井商店会、商工会、能代市役所、福祉施設、企業、農業従事者等、様々な方々のご支援、ご協力によって行っている事業であり、今年度で5年目となる。

①これまでの活動について

私が毎日の生徒指導で心がけていることは「社会に通用する人。」である。とりわけ3年生を担当したときは、このことを意識して話すことが多い。

たとえば「時間」については「早いは当たり前前、ギリギリは遅い、遅いはもつての外」を掲げて指導している。これは、中学校勤務5年目に同職した先輩教師の言葉である。いつも時間ギリギリや、遅れることが当たり前前の生徒には、はっきり伝えるようにして

初年度は、ニッ井産の食材を使っておにぎり開発を行った。この活動に、「おむすび権米衛」という企業が協力してくださり、道の駅で販売する運びとなった。2年日以降は幅広い活動を目指し、ニッ井中学校と連携し、「きみまちカンパニー」としての活動をスタートさせた。「ニッ井を元気にする」という目的の下、ニッ井産の食材を中心とした商品開発や、町の観光資源の紹介等を行ってきた。活動の終末には、ニッ井町商店街や道の駅を会場に「きみ・パ・フェス」を開催し、地域を巻き込んだ活動を展開してきた。

②活動の成果

自分たちの考えた商品が実際に販売されることが意欲につながり、地域のよさを改めて知る機会になった。また、販売や宣伝活動等を行うことで、そこに至るまでの企業や社員の努力と工夫についても考える機会となった。



③今後に向けて

カンパニーである以上、売り上げや予算等、可能な範囲での資金運営に関わらせない。また、継続を希望する地域の方々の多くの声に応えるために、予算に見合った活動、今後も継続できる活動を、一緒に模索していきたい。

いる。「社会に出ると、時間ギリギリは遅刻と同じ扱いをされる。もし途中で何かハプニングがあれば、きつと遅刻してしまうことになるでしょう。仕事で遅れたら相手や周りの人に大変な迷惑を掛けてしまうことになるんだよ。」と、そして「責任」について。自分の役割を最後までやらない生徒には、こう伝えることにしている。「どんな場合でも、やるべきことを責任をもって最後までやること」が大事。たとえ日常の小さなこと

でもです。その積み重ねをしていけば将来、必ず信頼される大人になるのです。」

難しいことではなく、当たり前前のことをきちんとやることの大切さを今のうちから身に付けてほしいという願いを込めて、時には厳しく、妥協を許さない強い気持ちで臨んでいる。今はまだできないとしても、社会人になったとき、「ああ、そう言えば・・・」と思いついてくれることを期待して。

編集後記

令和3年度から実施されているICTを活用した授業改善支援事業は今年度が最終年次になります。能代第一中学校がモデル校としてこの研究を推進してきました。先日、所長訪問に同行させていただきました。際には、どの授業でも、問題発見のツールとして、個別最適な学習のツールとして、共同学習のツールとして、様々な場面でICTの活用が図られていました。日頃から全職員で秋田の探究型授業の基本プロセスに沿ったICT活用に取り組みしていることが伝わってきました。生徒たちも目を輝かせながら学習し、自分の考えを生き生きと表現することができていました。9月28日には、公開授業研究会が実施されます。能代第一中学校が3年間取り組んできた研究成果を共有することができればと思います。ぜひ参観して各校の授業改善につなげてくださるようお願いいたします。様々な行事でお忙しい中、玉稿をお寄せくださった方々に心から感謝申し上げます。(D)